

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 7月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500978
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホームかえで
所在地	群馬県太田市龍舞町5655 (電話) 0276-30-2656

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5コムーン100-1B
訪問調査日	平成 19年 6月 26日

【情報提供票より】(19年 6月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 1月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有() 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 60 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 5日現在)

利用者人数	7名	男性	2名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87歳	最低	80歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田沼内科医院・しのぎき歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者、職員は利用者一人ひとりのペースを尊重し、職員はゆとりある態度で接している。利用者がそれぞれにゆったり、のんびり過ごしている様子である。また、各利用者の生活歴をふまえた接し方に心がけ、本人の特徴を生かした支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	鍵をかけない工夫については、運営推進会議により検討しているが、防犯上の理由及び家族や近隣住民の思いにより実施にいたっていない。入浴については人員配置等に工夫をするよう検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者並びに法人管理部門により自己評価を行い、職員全体による自己評価は行っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	介護保険制度並びにホームの説明。身体拘束についての検討。施錠や入浴体制の検討。討議内容については、運営に生かせるよう体制整備を進めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に利用者の状況報告をするとともに、意見や要望を聞いている。また、外部の苦情受付機関を書面で知らせている。運営推進会議には利用者家族全員に入ってもらえるよう要請している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭り、草むしり、野菜の差し入れなど、ホームに日常的に地域住民が訪ねてくる状況にある。また、地域の道路清掃時には互いに声を掛け合っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの自由を最大限に尊重した理念を掲げている。	○	地域を意識した内容でわかりやすいものを職員と一緒に作っていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿ってサービスができているかをカンファレンスや気づいたときに話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	理念に沿ってサービスができているかをカンファレンスや気づいたときに話し合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	要改善事項については職員会議や母体の会社全体でチェックして改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、介護保険制度やホームの説明、身体拘束などに関する考え方などについて意見交換してサービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の状況についての情報提供や事故報告などは行っているが、運営推進会議に市の職員が出席してもらえない。	○	引き続き市に対して会議への出席要請をしていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、家族から預かった金銭の管理報告を行うとともに、「かえで新聞」に個別のコメントを付けながら、日頃の様子を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し家族の意見の収集に努めているとともに、市や国保連などの苦情受付窓口を掲示している。	○	ホームでは、家族の意見が出にくい状況にあるため、無記名アンケートを実施予定であるとのこと。是非とも取り組んでいただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	結婚、定年、転職などにより職員の異動が発生しているが、その都度1ヶ月ほどの引継ぎ期間を持って、利用者のダメージ軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃はケアサービスについて実践内容をカンファレンスで話し合いながらトレーニングしている。また、法人内研修や外部研修への積極的な参加に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県レベルのグループホーム大会や地域の研修会、ホームごとの交換研修会への参加により交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、職員が居住場所への訪問による面接を行い、顔見知りになった後にホームの見学をおやつ時など、他の利用者と話しやすいときに設定して、雰囲気に慣れてもらった上で、サービス利用に入るよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はできるだけ利用者とともに過ごすことに心がけ、大工仕事や料理方法などについては利用者の指導により日々の生活を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報収集や日頃の生活の中で、利用者の希望を探り、買い物支援や散歩へのお誘いなどを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を中心とした全職員での利用者の様子の観察や、家族との話し合いなどにより、利用者 に合った介護計画作りをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化があった場合には介護計画の変更を行っているが、介護計画の実践に対する評価と記録が残されていない。	○	介護計画実践に対する評価の重要性を理解して、しっかりとした評価を行うとともに記録に残していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	畑仕事、買い物、花見、外食などの活動や、通院介助、入院時の見舞いや食材買い物の同行など、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医の往診が月2回あり、利用者の日頃の健康管理に役立てている。また、通院が必要で家族が同行できない場合は、ホーム職員が介助して通院している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期まで利用者の意向に沿って介護することが決められており、具体的な事例が出た場合は、職員会議、訪問看護や医師との協議、家族との相談の手続きを経て、退居を含めたその後の方針を決めていくこととしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーに配慮しながら、会話をするとともに、行動を見守っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホールや部屋での休息、散歩や買い物など、利用者のペースを尊重しながら生活を送っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片づけを含めて、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。また、食事中は会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員に欠員ができたために現在は曜日指定で、最低週2回の入浴を支援している。また、入浴拒否の利用者にもタイミングを見て声かけをすることでシャワー浴を含めて利用支援している。	○	ホームでは、今後は毎日入浴できる体制を整えたいとのことであるので、取り組みに期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、おしぼり巻き、配膳、あいさつなど、それぞれにホーム内での役割を持っている。また、大工仕事や料理など、楽しみながら生活できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園への散歩を習慣にしているとともに、花見や買い物、外食、地域の祭り、学校の運動会など、折々に外出の機会を設けて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営推進会議の席上で議題にあげて検討したところ、家族や近隣住民から、防犯上の理由で施錠を希望する意見が多かったために施錠している。	○	利用者の意思によりホームの外に出られるとともに、近所の方がいつでも訪問できるよう、鍵をかけない時間を設けて欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の方には災害時の協力依頼をしており、避難誘導訓練を年2回実施している。	○	ホームでは、今後は防災訓練時に近所の方にも参加してもらえるようお願いしていくとのこと。近所の方との連携を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量について、把握をしたうえで記録に残し職員が情報共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の飾り付け、ソファの配置など、静かに過ごせる雰囲気を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の持ち込み、鉢植え、写真など、利用者それぞれに居心地よく過ごせる雰囲気がある。		